

2025 年 1 月 20 日

2024 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

無痛分娩で出産した女性の語り
: ソーシャルメディアへの投稿内容の分析

Narratives of women who gave birth in painless delivery:
Analysis of social media posts

23MW007

氏名 小泉凜果

要旨

目的：女性が無痛分娩を選択する際に、どのような情報を必要としているのかは明らかになっていない。そこで、無痛分娩に関する内容でソーシャルネットワークサービスに掲載されている投稿や動画の内容を分析し、女性が分娩方法を選択するにあたって女性が求めている内容と、分娩方法を選択した意思決定の過程について実態を把握し、病院での意思決定支援において必要な情報と情報の提供方法について検討することを目的とした。

方法：無痛分娩経験者がソーシャルネットワークサービス（YouTube、Instagram）やウェブサイト（個人向けブログ）に掲載した体験談の投稿や動画を対象に記述研究を行った。

2024年9月27日に、「無痛分娩」「体験談」「レポート」の検索語を用いて検索をし、選択基準に合致する投稿について各サービスの検索上位5つを選定した。合計15件の投稿について、無痛分娩を選択した理由や過程、感想について分類し、意味のあるまとまりごとに記述した。

結果：無痛分娩経験者の投稿には、入院中の処置や子宮口開大度の経時的変化、家族の関わりといった【無痛分娩の経過】や、計画分娩における分娩予定日前日の処置や過ごし方といった【分娩目的での入院や処置の様子】があった。また、【無痛分娩で出産した感想】として、麻酔導入のタイミングによる予想以上の痛みの経験や、痛みが軽減することによる精神的な安定と体力消耗の軽減が語られていた。さらに、麻酔の影響で努責のかけ方やタイミングがわからないことや、麻酔の副作用による不快感があるといった【無痛分娩に伴う麻酔や処置による身体への影響】、産後の回復の速さや会陰裂傷の生じにくさ、パートナーと分娩の大変さを共有しにくい、分娩に集中できるといった【自然分娩との違い】についても語られていた。分娩方法を選択した意思決定の過程について、陣痛への恐怖や痛みを軽減したい、分娩日を決定したいという【無痛分娩の選択理由】から無痛分娩を希望する中で、【家族の思い】として本人の意思を尊重する家族だけでなく、無痛分娩に否定的な意見をもつ周囲や家族との葛藤、無痛分娩が施設の理由によりできない可能性があることや費用面への不安といった【無痛分娩に関する懸念点】がありながらも分娩方法として無痛分娩を選択していた。

結論：無痛分娩経験者のインターネットやSNSでの語りを分析した結果、無痛分娩の処置や経過の実際や分娩の感想などが求められている情報であることから、病院やクリニックで無痛分娩に関する説明をする際に、ピアサポーターとなる無痛分娩経験者の話を聞くことができる機会を作ることの情報の提供方法の一つとして検討する必要性が示唆された。

目次

第1章 序論	1
I. 背景	1
II. 目的	2
III. 意義	2
第2章 文献の検討	3
第3章 方法	5
第4章 結果	7
第5章 考察	21
第6章 結論	24
引用文献	25